

CHILD

HEALTH

AICHI

小児保健あいち

第 20 号

令和 4 年 1 月 23 日発行

愛知県小児保健協会

ごあいさつ

この原稿を書いている令和3年12月初頭、COVID-19パンデミックは幸い小康状態に入りながら、新しい変異株も報告されて第6波への警戒感が出ています。

マスクをつける習慣はむしろファッションの一部のように世の中に定着し、素顔を人にさらすことに抵抗感を感じる風潮も出てきています。感染防御という以上に、自分の表情を他人に読み取られにくい安心感があるのでしょうか。どこに出かけても人混みに出会わず、車の渋滞や待ち時間もなく行動できることは、思った以上に快適でした。1時間だけの会議のための東京出張もなく、電車や飛行機、ホテルの満席を気にすることもなくなりました。

しかし、この余裕のある快適な社会では、経済活動は破綻するようです。大量の無駄を含めた大量生産と大量消費が、社会を「豊かに」支えていたと思い知らされます。一方で、SDGsやカーボンニュートラルが、地球の存続に不可欠だと国際社会は強く動いています。自然エネルギーの開発も重要ですが、この超大量生産・大量消費（破棄を含む）を見直すことが先決問題のようにも思います。

COVID-19パンデミックは、こうした世の中の「無駄」を一旦削ぎ落とし、本来に必要なことだけが復活してくる契機となりました。情報通信技術の発達は著しく、多くの企業が先進的な取り組みを行い、社会活動はすでに大きく変わっています。その中で医療・保健の分野は、特に日本において、この発展から立ち後れているように感じます。

この社会の合理化の中で、子どもたちはゼロから育ってきます。全員が一律に行動することを是とした教育から、個を大切にできる教育に向かっていくのでしょうか。その中で、スポーツや芸術でずば抜けた才能を開花させる若者がいる一方で、自分を見失って路頭に迷う子どもとのギャップが大きくなっているようにも感じます。ICTやオンラインを使った教育が何をもたらしてくるのか、私たちは医療・保健の立場から注視していく必要があります。

今年の愛知県小児保健協会も、オンラインを中心とした開催となりました。この形式が社会の発展型として定着するのか、やはり完全対面開催に戻るのか、まだ模索の途中にあるようです。

2022年1月

愛知県小児保健協会
会長 伊藤浩明

目 次

令和3年度愛知県小児保健協会学術研修会プログラム	1
一般演題	
1 安全な学校生活を送るために行動できる生徒の育成 —保健委員会から全校生徒へ広げる熱中症予防の取組を通して—	2
早川 和代 (愛知県大府市立大府南中学校)	
2 母乳性貧血と補完食の指導	3
棚橋 順子 (川井小児科クリニック)	
3 NICU から在宅移行した乳幼児における経鼻栄養から経口移行支援の経験	4
柴田 享子 (金森歯科医院在宅ケア部)	
4 子どものアレルギー疾患と災害対策	5
杉浦 至郎 (あいち小児保健医療総合センター)	
特別講演	
「COVID-19 の自宅／宿泊施設療養の小児の電話診療 (静岡市方式) から見えてくるもの」	6
講師：静岡厚生病院 小児科 田中 敏博 氏	
関係機関団体紹介	7
公益社団法人愛知県医師会、一般社団法人愛知県歯科医師会、愛知県小児科医会、 一般社団法人愛知県薬剤師会、公益社団法人愛知県栄養士会、愛知県学校保健会、 愛知県養護教育研究会、愛知県保健師会、愛知県市町村保健師協議会、 公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会、公益社団法人愛知県歯科衛生士会、 愛知県保育士会	
愛知県小児保健協会規約	15
令和3年度愛知県小児保健協会役員名簿	16

令和3年度 愛知県小児保健協会学術研修会プログラム

日時 令和4年1月23日(日) 13:00～15:30

場所 あいち小児保健医療総合センター 地下1階 大会議室

受付開始(12:30～)

I あいさつ 愛知県小児保健協会会長 伊藤 浩明 (13:00～13:05)

II 一般演題 座長/愛知県尾張福祉相談センター長 前田 清 (13:05～13:55)

1 安全な学校生活を送るために行動できる生徒の育成
一保健委員会から全校生徒へ広げる熱中症予防の取組を通して一
早川 和代(愛知県大府市立大府南中学校)

2 母乳性貧血と補完食の指導
棚橋 順子(川井小児科クリニック)

3 NICUから在宅移行した乳幼児における経鼻栄養から経口移行支援の経験
柴田 享子(金森歯科医院在宅ケア部)

4 子どものアレルギー疾患と災害対策
杉浦 至郎(あいち小児保健医療総合センター)

III 特別講演 座長/愛知県小児科医会 小児保健委員会委員長 松川 武平(14:10～15:30)

「COVID-19の自宅/宿泊施設療養の小児の電話診療(静岡市方式)から見えてくるもの」

講師:静岡厚生病院 小児科 田中 敏博氏

後援:愛知県 名古屋市 愛知県医師会 愛知県小児科医会 愛知県歯科医師会 愛知県薬剤師会
日本小児保健協会

安全な学校生活を送るために行動できる生徒の育成

—保健委員会から全校生徒へ広げる熱中症予防の取組を通して—

○早川和代^{はやかわかずよ} 愛知県大府市立大府南中学校

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症予防のため、常時マスクを付けて生活している。そのため、保健室へは発熱などの体調不良で来室する生徒は減っているが、気温の上昇とともに熱中症症状で来室する生徒が増加している。体調不良での来室者の中には「水筒を忘れた」という明らかな水分不足、「朝ごはんはいつも食べない」という朝食欠食、「寝るのはいつも24時過ぎ」という睡眠不足によるものも多く、生活行動に原因があると気付いていない生徒が少なくない。

一方、令和2年、3年に全校で実施した生活アンケートの結果を見ると、「朝食は毎日食べない」と答えた生徒は全校の3%(R2)、2%(R3)、「夜中1時以降に寝ている」と答えた生徒は全校の6%(R2)、7%(R3)おり、朝食や睡眠など生活習慣について意識を高める必要性を感じていた。そこで、保健委員会で熱中症予防に取り組むことで、正しい生活習慣についての意識を高めようと思い実践した。

2 実践内容

(1) 熱中症予防キャンペーンの実施

教師からの一方的な指導よりも生徒から全校生徒へ伝える方がより効果があると感じ、保健委員会による熱中症予防キャンペーンを企画した。全生徒に配付されているタブレットを使用して予防方法について調べ、学級で伝えたいことについて話し合った。また、先生方にインタビューを行い、水分補給の仕方やタイミング、食事や睡眠、体力づくりなど、日頃行っている予防方法を聞いた。保健委員会で調べた内容や聞き取り調査をした内容を健康新聞にまとめ、学級で発表を行った。それとともに、多くの生徒が頻繁に目にするように、各学年のフロアや昇降口に掲示した。さまざまな予防方法を目にすることで一人一人が自分でできることはないか考える機会を増やし、やってみようという意識付けを図った。

(2) 生徒と職員の意識を高める活動

生徒の危機管理意識を高めるためには、まず、職員の意識を高めることが必要であると考えた。そこで、職員向けに、暑さ指数の測定方法や熱中症が疑われる症状についてプリントを作成し、周知を図った。生徒の意識を高めるために、熱中症予防や新しい生活様式での過ごし方を掲載した保健だよりについて、STの時間に担任から一斉指導してもらい生徒への意識付けを図った。さらには、暑さ指数を職員室の出入口や生徒の目に留まる廊下等に掲示したところ、体育や部活動の前に確認する姿が見られ、熱中症に対する意識向上につながっている。

3 実践の成果と課題

保健委員が作成した健康新聞を見た生徒から、「朝食は熱中症予防に欠かせない」「水分補給はのどが渇く前に飲むことも重要なポイント」という声が聞かれた。各学級で保健委員から発表するだけでなく、掲示して多くの目に留まるようにしたことで、意識付けになったと感じる。しかし、熱中症症状で来室する生徒はゼロにはなっていない。一方で、症状を訴えた生徒の中には、自分でその原因が分かる生徒が多くなっている。また、例年、部活動中に熱中症で救急搬送するケースが1件はあったが、今年度は初期症状での訴えで来室できており、救急搬送するケースは1件もない。これは、生徒、職員ともに熱中症に対する危機意識が高まったからではないかと思われる。今後も養護教諭からだけでなく、職員や保健委員会とともに、生徒の視点で全校生徒に呼びかけができるような取組を模索し、更なる意識向上、行動変容につながるよう働きかけていきたい。

母乳性貧血と補完食の指導

○^{たなはしじゅんこ}棚橋順子、土屋千枝、鶴田恵子、村瀬貴代子、谷美樹、川井進 川井小児科クリニック
仲佳代、上田由美 認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

はじめに

母乳はミルクと比較して鉄含有量が少ないため母乳栄養児に貧血がみられやすい。そこで、当院では乳児健診で貧血検査を行っている。これまでの貧血検査で、ミルク栄養児には貧血は認められず、完全母乳栄養児には貧血（ヘモグロビン 11.0g/dl 未満）が 19%認められた。

今回、完全母乳栄養児を対象にヘモグロビン検査に加え、血清鉄、フェリチン（貯蔵鉄）の検査を行い、「潜在性鉄欠乏」について検討した。

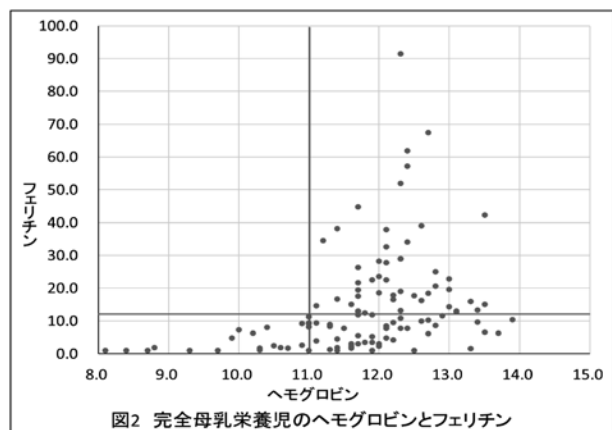
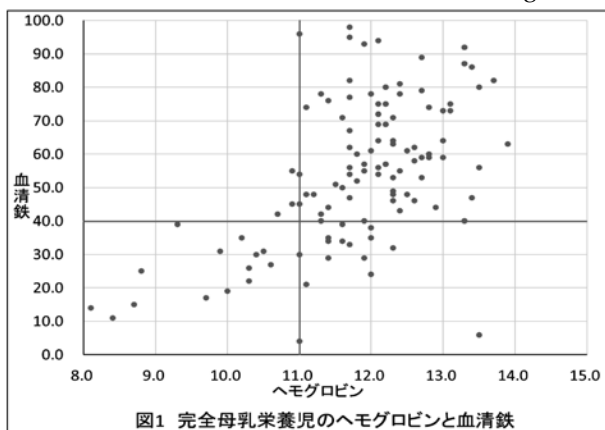
対象と方法

2020 年 1 月から 2021 年 7 月末までに乳児健診に来院した乳児（生後 6 ヶ月～11 ヶ月まで）のうち、完全母乳栄養で貧血検査を希望された 117 名。貧血の検査としてヘモグロビン、血清鉄、フェリチンの検査を行った。

貧血および鉄欠乏症と診断した乳児に対して、鉄剤投与と補完食の指導を行った。

結果

血液検査を行った 117 名のうちヘモグロビン 11.0g/dl 未満の貧血の児が 17 名(15%)、ヘモグロビン 11.0g/dl 以上の児が 100 名（85%）だった。ヘモグロビン 11.0g/dl 以上の 100 名のうち、血清鉄が 40 μ g/dl 以下の児が 15 名（15%）（図 1）、フェリチン 12ng/dl 以下の児が 48 名（48%）（図 2）だった。



ヘモグロビン 11.0g/dl 未満の貧血の乳児と、血清鉄が 40 μ g/dl 以下、フェリチン 12ng/dl 以下の乳児に鉄剤 4ml/日（2～3mg/kg/日）を処方した。

補完食の指導は、管理栄養士と共に、鉄分含有量の多い食材を摂取するよう指導した。内容として、1日に必要な鉄分摂取量は 4.5～5.0 mg/日と説明の上、鉄分含有量の多い 9 品目の食材（レバー・肉・卵黄・マグロ・ほうれん草・育児用ミルク・のり・大豆製品・鉄分強化のベビーフード）を紹介し、各々 1mg 摂取するのに必要な量を具体的に示した。

考察

母乳栄養児にはヘモグロビンが正常値でも、血清鉄、フェリチンが低い「潜在性鉄欠乏」が高頻度にあることが明らかになった。鉄欠乏状態が続くと、まずフェリチンが減少し、次に血清鉄が減少し、最終的にヘモグロビンが減少し貧血となる。貧血が持続することにより、脳の発達が障害される可能性があると考えられている。そのため母乳栄養児には貧血に対する理解をしてもらい、一般的な補完食の指導に加えて鉄分含有量の多い補完食の指導をする必要がある。

NICU から在宅移行した乳幼児における経鼻栄養から経口移行支援の経験

○柴田^{しばたきょうこ}享子, 谷川紀子, 金森啓子, 金森大輔 金森歯科医院在宅ケア部

【はじめに】

近年, 新生児・周産期医療の進歩に伴い早産低出生体重児の生存率は著しく向上している。一方, それらの長期予後では, 神経学的障害を合併する割合が高く早期発見・早期支援は重要である。また, 合併症のない場合であっても, 運動および精神発達は正期産児とは異なり, 両親の不安も大きい。平成 30 年度に医療・福祉・介護における報酬改定がおこなわれ, 医療的ケア児を中心とした小児在宅支援が推進されている。当院は, 2019 年より医療的ケア児等の小児在宅における摂食支援を開始した。今回 NICU 退院児で生後 5 か月から介入し, まもなく 3 歳を迎える症例から若干の知見を得たので報告する。

【症例】

M 君 生後 5 か月身長 54cm 体重 4230g [主訴] 訪問看護から「哺乳がすすまない 5 か月の低出生体重児が経鼻経管で退院するが, 口腔の発達を診てほしい。」と依頼。[プロフィール] 出生時: 37 週, 身長 48.0cm, 体重 1975g, アプガースコア 10 点。疾患なし。NICU 退院 2 か月後, 発熱と咳, 哺乳不良を主訴にヒトメタニューモウイルス陽性で入院。入院中, 症状改善するも哺乳瓶拒否により 1 日哺乳量が確保できないため経鼻栄養となり 1 か月後退院。咳から頻回に嘔吐, 経鼻チューブ操作や哺乳に時間要し, 3 時間毎の授乳も負担となり母の不安増大。[家族] 両親・姉 (4 歳)・兄 (2 歳)。母方実家は自宅の隣で祖母が育児支援者。

【経過】

初回訪問時, 身体発育状態や栄養摂取状況, 母親の不安や今後の希望を聴取した。栄養は経鼻 120ml×4+哺乳瓶 10~20ml。嘔吐と下痢が頻回で, 1 回量減量し注入回数増加。哺乳は乳首への吸いつき悪く拒否があるため, 乳首の変更や授乳のタイミングを図るも困難。日常動作で指舐めが観察され, 5 か月過ぎに定頸となったため, 重湯, ペースト食少量から経口摂取をはじめ。送り込みと嚥下状態は良好。咳, 嘔吐が続き体重が増えず入院。自宅では嘔吐と注入量と回数に翻弄され, まずは体重を増やすことを最優先とし, 次に食への興味関心の向上と摂食機能の獲得を長期目標とした。経鼻 840 ml/日を嘔吐状況に考慮し, 1 日 12 回ほどの注入回数を続けた。12 か月頃より自我の発達と共に手づかみや食具による遊び食べや吐き出し, 拒食が出現し, 経口摂取量は伸び悩んだ。アイスクリームやゼリーと甘い物を好む傾向であった。コップ飲みは 18 か月で獲得。乳切歯での咬断に興味を持ちはじめ, 嘔吐回数が 2 日 1 回程度に減少したため, 経鼻量の減量を試行した。言語表出が進み, 外遊び等活動量が増え, 20 か月頃より食べたい意欲を表出するようになった。26 か月, 体重 10200g となり発育曲線に乗る。海苔巻き, 麺類等好んで口にできるようになったが摂取量が増えないため, 主栄養は経鼻 1 日 10 回である。現在は, 来春入園を目指し, さらに経鼻量を減らしながら完全経口摂取を目標にしている。

【考察】

経鼻栄養の低出生体重児における嘔吐は, 体重増加を願う母親の過重なストレスになる。一方で経鼻栄養は, 児に空腹感を与えず, 摂食機能獲得の阻害要因になると推察される。今回, 母親と訪問看護, 主治医と連携し, 体重増加を勘案しながら経鼻量を減量したことにより, 空腹感を感じ, 食への関心が増えたと考える。母親の不安や希望に耳を傾け支援することの重要性を経験した。

子どものアレルギー疾患と災害対策

○^{すぎうらしろう}杉浦至郎 あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室

背景と目的

災害時、アレルギー疾患を有する患者も要配慮者とされている。2011年の東日本大震災後、小児アレルギー学会は災害時のこどものアレルギーに関する相談窓口を設置し、日本栄養士会は、活動の中に特殊栄養食品ステーション設立を含む、日本栄養士会災害支援チームを設立した。また、日本アレルギー学会はアレルギーポータルを作成し、その中に災害時の対応に関するページを設けている。これらの対応に加え、日本小児アレルギー学会、日本小児臨床アレルギー学会は災害対策向けのパンフレットを作成、また、患者会の活動として「アレルギーサインプレート」や「緊急時（災害時）のおねがいカード」などが作成されている。しかし、患者・養育者の視点から見た、これらの対策の認知度、実用性、問題点等の評価は十分に行われているとは言えない。そこで我々は、大規模災害に対する意識や準備状況、必要とする情報や対策に関するアンメットニーズを把握することを目的に、成人を含む患者本人、及びその養育者に対する自記式質問紙調査を行った。

調査方法

2021年1月～2月に全国の成人を含むアレルギー疾患患者又はその養育者に、Google フォームを用いたアンケート調査を行い、20歳未満患者の養育者の回答を解析した。

結果

解析対象は合計1221件（女性92%）であった。「学会や自治体の相談窓口やパンフレット」「アレルギーポータル」「公的避難所のアレルギー対応食備蓄有無」に関してはそれぞれ83%、58%、83%が知らないと回答し、家庭における食糧備蓄量は3日以上が72%、7日以上が15%、推奨されている14日以上はわずか1.2%であった。エピペン[®]を有している529家族のうち、すぐに持ち出せる物品にエピペン[®]が含まれていると回答したのは471家族(89.0%)であった。災害時に欲しい情報は「薬がない時の対処」が最多で、電源を考慮し紙媒体での提供希望が多かった。被災経験者が実際に困ったことは「皮膚症状の悪化」が最多であり、「アレルギー疾患に関して相談したかったが、相談先がわからなかった」の回答が24%存在した。

結論

自助の啓発に加え、公助の充実と周囲の理解が必要であることが明らかになった。

COVID-19の自宅／宿泊施設療養の小児の電話診療（静岡市方式）から見えてくるもの

静岡厚生病院 小児科 たなか としひろ 田中 敏博

3密、濃厚接触、新しい生活様式、ソーシャルディスタンス、ユニバーサルマスク、オーバーシュート、ロックダウン、ステイホーム、GoTo キャンペーン、人流、まんぼう、医療崩壊。この約2年間で、コロナを彩る様々な言葉がメディアと政治家によって創り出され、そして使い捨てられてきました。“クラスター”という言葉がNHK ニュースの二カ国語放送では“group infection”と英訳されているのを耳にして、改めて日本におけるガラパゴス騒動の側面を認識しました。“コロナ禍”と連呼するけれど、その災いをもたらし、焚きつけたのは、当のメディア自身なのではないでしょうか。

得体の知れない未知の新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による感染症（COVID-19）は、法律上も社会的にも特別扱いされ、それが今でも続いています。得体が知れず、未知であるが故、人々は情報を渴望しました。ここでメディアが大活躍しました。連日ワイドショーで司会者とコメンテーターが眉間にしわを寄せて世界と日本の“窮状”だけに焦点を充て、“恐ろしい感染症”を語り続けました。人々は、医療従事者も含めて、画面を食い入るように見つめ、“恐ろしい感染症”の認識を深めていきました。

いつしかコロナは、「かかってはならない恐ろしい殺人ウイルス」として社会に定着しました。おとなも子どももかかることが許されない、かかったら最後、かかったことを隠し通さなくてはいけない感染症であり続けています、仮に軽症で経過して全快しても。

想像を絶するスピードで、新しい技術の粋であるmRNA ワクチンが開発、導入されました。病気にかかって大変な思いをする、命の危険に脅かされる、そんな状況を未然に防ぐために接種するのがワクチンです。しかるに、「打ってないと仲間外れになる」「万が一かかると学校を長く休まなくてはいけなくなって面倒くさい」、という理由で接種することになる、子ども達にとっては不思議なワクチンになってしまっています。

静岡市では、2020年8月に保健所と市内の病院小児科の責任者が協議し、小児のコロナ患者は原則自宅療養として、自動的に入院、とはしないことを申し合わせました。コロナの場合、自宅療養となれば保健所が毎日健康観察をしてくれるけれど、なぜか医療とは切り離されてしまう矛盾が生じます。これを打開するために、臨時で主治医を立てて電話診療により病状の把握と精神面のサポートをしてはどうか、との提案が通り、当科が保健所と連携して対応するようになりました（静岡市方式）。

2021年9月末現在、静岡市の累計のコロナの患者数は5,766名、うち中学生以下の小児は541名。患児の療養場所は、入院7名、自宅510名、ホテル12名、施設入所中でそのまま加療12名。重症度は、重症0名、中等症1名、軽症（無症状を含む）540名。当科で臨時主治医として初回対面診療、以後電話診療により対応した患児は131名（入院ゼロ、全員軽症または無症状）。対応したご家族は110世帯にまたがり、おとなの患者118名、小児の濃厚接触者49名、おとなの濃厚接触者69名も併せて診療しました。

静岡市方式により小児とご家族のコロナの患者と濃厚接触者に接してきた実際と、そこから見えてくる、しかしワイドショーでは決して報じられない現実を共有し、我々は、こどもは、コロナと正しく向き合っているのか、共に考えてみたいと思います。

<関係機関団体紹介>

- 1 公益社団法人愛知県医師会
- 2 一般社団法人愛知県歯科医師会
- 3 愛知県小児科医会
- 4 一般社団法人愛知県薬剤師会
- 5 公益社団法人愛知県栄養士会
- 6 愛知県学校保健会
- 7 愛知県養護教育研究会
- 8 愛知県保健師会
- 9 愛知県市町村保健師協議会
- 10 公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会
- 11 公益社団法人愛知県歯科衛生士会
- 12 愛知県保育士会

1 公益社団法人愛知県医師会

公益社団法人愛知県医師会では、学校保健部会幹事会において、学校保健領域における活動の基本方針を策定し、学校健診委員会で具体的検診項目の全県下レベルでの精度管理と有用性の検討を行っています。

また、単に健診などの保健活動を行うだけでなく、それらを取りまとめ、様々な方向から検討を行い、その成果を適切に公表する事により、学校保健の実践に役立たせることが可能と考えています。

今年度の主な事業は下記内容を予定しており、今後とも当会は、学校保健に携わる皆様方のご協力をいただきながら、子どもたちの未来を見据えた活動ができるよう取り組んでまいります。

○令和3年度の主な事業内容

- 1) 第36回学校保健健診懇談会の開催
- 2) 令和3年度学校保健シンポジウムの開催
- 3) 令和3年度学校保健講習会（日本医師会主催）への参加
- 4) 第52回全国学校保健・学校医大会（岡山県）（日本医師会主催）への参加

2 一般社団法人愛知県歯科医師会

愛知県歯科医師会は3,905名(令和3年9月現在)の会員で、地域の歯科医療を通して県民の健康維持・増進に努めています。

平成元年から厚生省(当時)と日本歯科医師会が展開する「8020(はちまるにいまる)運動」は、今も全国各地で継続され、最も成果をあげた健康啓発活動の1つとされていますが、その源流は愛知県にあります。この活動を通し、より多くの歯を残すことが歯と口の健康を保つばかりか、全身の健康増進、健康寿命の延伸にもつながる数多くの知見が蓄積されたことから、当会は平成26年に「ウエルネス8020」を提唱し、県民の口腔健康観を高め、全てのライフステージに応じた口腔機能の維持・管理を推進する事業へと発展させています。

平成28年から取り組む「0歳児からの口腔機能育成事業」では、歯科医療関係者のみならず保育に係わる全ての関係者を対象に、子どもの食の問題を正しく理解し、歯の萌出前から関与することで口腔機能の発達の支援者になるための研修会を開催しています。さらに、愛知県全域で適切な口腔機能育成指導が実践できるよう、歯科医師を対象に指導者養成コースも開催しています。

学校歯科健康診断の精度向上のための歯科医師研修、愛知県学校歯科保健研究大会の主催など学校保健に係わる活動に加え、児童・生徒の「図画ポスターコンクール」や「もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト」を開催することでも、歯と口の健康増進を啓発しています。また、令和4年6月に愛知県常滑市で開催される「第17回食育推進全国大会」にも参加し、来場者には食べる楽しみ、良く噛むことの大切さを訴える計画です。

3 愛知県小児科医会

愛知県小児科医会では、小児保健委員会が中心になって小児保健を考える場にしております。今期の活動テーマとして下記の3項目を取り上げ、検討をしていきたいと考えております。

〈活動内容〉

- ① 愛知県母子健康診査等専門委員会参加
- ② 県市長会妊産婦・乳幼児健診協議会参加
- ③ 愛知県小児保健協会参加
- ④ 今期の活動テーマとして
 - (ア) 学校健診での脱衣の問題
 - (イ) 学校保健会のあり方についての指針
 - (ウ) 医教連携:子どもたちが自分の健康を守るために必要な知識を学校教育の中に取り込む試みの中で、がん教育などの講話に活用できるスライドなどの資料を作成する。

4 一般社団法人愛知県薬剤師会

愛知県薬剤師会では、2010年度から、妊娠、授乳中の方からの相談に対して適切なアドバイスを
行い、さらには医療従事者へ適切な情報提供ができる「妊娠・授乳サポート薬剤師」を養成してお
り、現在、愛知県外も含め約480名の薬剤師が活躍しております。今年度はコロナ禍で対面による
活動を行う機会が少なくなっておりますが、電話等でのご相談をいただき、薬剤の使用への不安に
答え、最適な薬物治療を受けられるよう提案をさせていただいております。今年は特に、新型コ
ロナワクチン接種に関する相談が多く、「妊娠・授乳サポート薬剤師」からのアドバイスで安心して
接種ができたと報告を受けております。また、妊娠を希望される方へ早期に葉酸の摂取を推奨する
活動も行っております。

スポーツにおけるドーピングを防止するための専門知識を持った薬剤師である「公認スポーツファ
ーマシスト」は学校教育現場等において、最新のドーピング防止に関する正確な情報提供や薬の正しい使
用方法の指導・啓発などの活動を行っています。薬の使用がドーピングに抵触するかの確認のみに留ま
らず、特に女性の10代から起こり得る低エネルギー（痩せ）による無月経、疲労骨折の問題に着眼し、
「女性アスリート」向けパンフレットなどの資料作成にも取り組んでおります。

また、今年度、厚生労働省の補助金事業として本会の「愛知県内における医療的ケア児の薬物療法に
係る連携体制構築推進事業」が採択され、愛知県内の医療的ケア児診療の中核的医療機関である愛知県
医療療育総合センター中央病院の所在する春日井市をモデル地区として、地域の医療機関と薬局間にお
ける連携体制の構築を目的とした事業を実施することとなりました。当事業で得られた成果を基に愛知
県全域において医療的ケア児の薬物療法に係る連携体制を構築していきたいと考えております。

5 公益社団法人愛知県栄養士会

本会では、栄養相談や研修会講師などに管理栄養士を派遣する「栄養ケア・ステーション」を設置し
ていますが、本年7月に整理を行い、新たなニーズに対応できる体制としましたのでご利用下さい。

- 1 **栄養ケア・ステーション**とは、栄養の専門性を活かした栄養ケアを提供する事業です。
- 2 **目的**は、県民の栄養改善、重症化予防、介護予防による健康寿命の延伸を図るとともに、治療か
ら介護、介助まで、個々人に対応した適切な「食べること」を支えます。
- 3 **どんな内容**に対応してくれるの（詳細は本会ホームページでご確認ください。）
 - (1) **医療施設向け**
診療報酬にかかる栄養食事指導、在宅訪問栄養食事指導など
 - (2) **介護施設向け**
介護報酬にかかる栄養アセスメント及び栄養改善の連携、居宅療養管理指導など
 - (3) **県民のみなさま向け**
講演会、講習会（健康づくり、食育、介護予防講座）、調理講習会などの講師
 - (4) **事業所向け**
特定保健指導、検診後の栄養指導など
 - (5) **企業向け**
社員・家族向け栄養セミナー、社員食堂献立アドバイスなど
 - (6) **スポーツ関係団体向け**

県民及びスポーツ関係者に向けたセミナー、スポーツ講座、食事サポート及び指導

6 愛知県学校保健会

1 事業目的

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校及び国立高等専門学校における保健・安全及び環境衛生の充実・推進を図り、幼児児童生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるようにするとともに、生涯にわたる健康・安全の重要性を認識させ、その保持・増進を自ら実践できる態度や能力の育成を目指す

2 会員

学校(園)医、学校(園)歯科医、学校(園)薬剤師、校(園)長、教頭、保健主事、養護教諭、その他学校保健関係者、本会の目的に賛同し会長が認めた者

3 事業内容

学校保健に関する普及啓発、学校保健関係者の資質向上、学校保健に関する情報の提供、学校保健関係団体との連携等

[今年度の主な活動]

- (1) 令和3年度愛知県学校保健会県立学校部保健研究大会 [紙面発表等]
令和3年8月20日(金)開催を予定していたが、紙面による研究発表(一部動画発表)に変更。大会冊子(DVD添付)を作成、関係者・学校等へ配付。
- (2) 第69回愛知県学校保健研究大会・第42回東海ブロック学校保健研究大会 [Web開催]
令和3年10月13日(水)開催を予定していたが、表彰関係は紙面にて、講演・研究発表はWeb配信に変更。大会冊子を作成、関係者・学校等へ配付。
- (3) 地区学校保健研究大会(講演、研究発表、シンポジウム等 ※尾張・三河地区で各1回開催)
*尾張: 第39回尾西地区学校保健大会
令和3年10月21日(木) 津島市文化会館
*三河: 第41回東三河地区学校保健研究大会
令和3年11月18日(木) ライフポート豊橋

※ (1) (2) の研究大会において、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来の集合形式より変更し開催。

7 愛知県養護教育研究会

愛知県内(名古屋市を除く)の公立小・中学校、義務教育学校及び国立小・中・特別支援学校の養護教諭等(今年度会員数1,075名)で組織され、会員相互の力量向上を目指す研究団体として活動しています。

1 今年度の主な事業

- 5月 総会・研修会(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修会は中止、総会は書面議決)
- 7月 研究大会はWeb開催
- 12月 研究会誌の発行
- 12月 研修会(参加者を募って開催)
- 1月 会報の発行

2 第32回愛知県養護教育研究会の内容(7月30日 Web開催)

研究主題 「新たな時代をたくましく生きる子どもを育む養護教諭の役割」

- (1) 研究発表
 - ・チームNishioで育む「からだ・こころ・いのち」 西尾市養護教諭部会
ー学校・家庭・地域でつながる「いのちの教育」実践を通してー
 - ・輝け命!とどけ心に!「わたしも大事 あなたも大事」 愛知地区教育研究会学校保健部会
ー愛知地区養護教諭がつながり、一人一人の力を高める取組ー
- (2) 調査研究の方向性 「養護教諭としての専門的力量と資質向上を目指して」 愛養研調査研究部
ー現代的健康課題に対する養護教諭の意識・取組から考えるー
- (3) 講演 「養護教諭が知っておきたい心理支援」ー学校現場における様々な子どもの理解と支援ー
講師 豊橋市教育会館 心理カウンセラー 久利 恭士 先生

3 第12回愛知県養護教育研究会研修会(12月4日 Zoomによるオンライン研修)

演題 「保健教育デザインから考える『子どもが主役の保健授業』」

講師 熊本市公立学校初任者研修指導講師 澤 栄美 先生

8 愛知県保健師会

愛知県職員である保健師168名（令和3年5月現在）の会員の資質向上並びに会員相互の交流と親睦を図り、もって公衆衛生活動の発展に寄与することを目的に活動をしています。

会員は、県下11保健所を始め、県下10福祉・児童相談センター、精神保健福祉センター、医療療育総合センター、あいち小児保健医療総合センター、愛知県庁内の7部署、教育委員会、市町村派遣と多部署に所属しています。地域ごとに名古屋・尾張東・尾張西・三河の4つのブロックを設け、ブロック単位の活動も行っています。

【今年度の研修内容】

令和3年4月10日（Web開催）

講演1 「依存症の予防と正し理解～ゲーム・スマホ依存を中心に～」

講師 予防医療研究所 代表 磯村 毅氏

講演2 「愛知県保健師へのメッセージ

～県保健師としての38年間を振り返って～

講師 愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室 前室長 幾田 純代氏

令和3年11月6日（予定）

講演 「保健師のための国語ゼミ

～相手に伝えるべきことを伝え、相手の発言をきちんと理解するために～」

講師 立正大学文学部哲学科 教授 野矢 茂樹氏

新型コロナウイルス感染症のまん延防止等、時代に合わせた会のあり方や研修会の持ち方を検討しつつ活動を展開しています。

9 愛知県市町村保健師協議会

愛知県の53市町村（名古屋市を除く）の保健師1,174人の会員（令和3年4月1日現在）で構成されています。市町村間の連絡協調のもと、保健師が各職務に関して必要な知識と技術を習得し、質の向上を図ることを目的に活動しています。

市町村保健師活動は多様化しており、母子保健、成人保健、高齢者福祉等様々な分野において、医師・歯科医師・薬剤師会の先生方をはじめ、学校や企業等の職域、介護関係機関等、様々な職種の方と連携し、地域の全ての人の健康と、子育て、福祉に寄与することを目指しています。

従来、地域の健康課題の解決のため、尾張西支部、尾張東支部、西三河支部、東三河支部の4つの支部に分かれ、毎年グループ研究として、調査、研究、研修等を実施してきました。しかし、令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策及びワクチン接種業務等の影響を受け、令和2年度、3年度はグループ研究を中止しており、愛知県小児保健協会学術研修会の演題提出はしておりませんが、母子保健においては子育て包括支援センターの事業・連携体制をはじめ「切れ目ない子育て支援」を目指し取り組んでおります。

1 所属別人数

保健所	地域保健	児童福祉	高齢福祉	障害福祉	国保	その他
219人	647人	76人	128人	28人	28人	48人

2 主な活動

- (1) 研修会の開催（年間7回：Web研修）
 (2) 県内・県外研修補助事業
 (3) 市町村保健師活動のすがた発刊（年1回）
 (4) 愛知県内関連会議への代表出席（16会議）
 成人事業・生活習慣病関連/母子保健事業関連
 アレルギー疾患関連/自殺対策関連
 介護保険・介護予防事業関連
 障がい者自立支援関連/他

<研修会内容>

1	産後のメンタルヘルス
2	多胎児支援
3	ホワイトボードミーティング
4	脳科学からみる依存症
5	運動の必要性
6	避難所の感染症対策
7	歯科保健

10 公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会

愛知県看護協会は、約 39,400 名を会員とする看護職の職能団体です。そのうち助産師は、1,562 名で妊産婦を中心とした女性のライフサイクルに関わり、安心安全なケアの提供を目指して活動をしています。

2021 年度の活動は、①助産師の専門性の向上、②妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援(産後うつ)、③助産師出向支援、④関係団体との連携の 4 点を中心に計画いたしました。具体的な活動は以下のとおりです。

1. 職能研修会の開催

①2021 年 9 月 6 日(月)「子宮収縮剤の使用と管理」「母体感染のリスクと管理」

講師 あいち小児保健医療総合センター早川博生氏

②2021 年 11 月 1 日(月)「フィジカルアセスメント：代謝」 講師 あいち小児保健医療総合センター早川博生氏

③2021 年 10 月 8 日(金)「フィジカルアセスメント：新生児」 講師 安城更生病院 加藤有一氏

④2021 年 6 月 27 日(日)「産後うつの基礎知識と EPDS を活用した早期発見・早期対応」

講師 東邦大学 福島富士子氏 訪問看護ステーション co-co-ro 山岸由紀子氏

講師をお迎えし、助産師の専門性向上を図る研修会を行いました。

2. 交流会の開催 2021 年 11 月 26 日(金)

テーマを「妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援、地域に繋いだらどうなるの？保健師さんに聞いてみよう」とし、保健所保健師から実践報告を行ってもらい、連携について意見交換を行いました。

3. 地区支部助産師情報交換会の開催 2021 年 9 月 24 日(金)、12 月 24 日(金)

「母子のための安心・安全な地域包括ケアシステムの提供」のために要支援事例の具体例を共有する場を設け、情報共有を行い課題発見に繋げ、参加施設・地区へフィードバックを行いました。

4. 周産期母子医療センター管理者情報交換会の開催 2021 年 10 月 23 日(金)

産科と NICU との連携について情報交換・共有を行い、参加施設・地区へフィードバックを行いました。

11 公益社団法人愛知県歯科衛生士会

愛知県歯科衛生士会ホームページの紹介・活用方法 <http://aichi-shika.com/>

当会のホームページは、どなたでも閲覧・活用できるよう開設しています。

ホームページトップは、以下の①～③の項目をメインに掲げています。

① は、歯科衛生士の基本的業務である 1 歯科予防処置 2 歯科診療の補助 3 歯科保健指導に基づいた会員の活動を紹介しています。また診療所以外の活動を知ることができます。

① の下の「刊行・各種資料ダウンロード」では、歯科口腔保健リーフレット集として数多く掲載しています。日常の保健指導に皆様に活用いただきたいです。

② は、県内各支部の市町村区分けを紹介し、各地区の特色を説明しています。その下の「イベント 活動報告」では、支部を含めた当会の活動を紹介しています。愛知県民への歯・口腔の健康づくりを支援する公衆衛生活動を知ることができます。

③ は、研修会の紹介です。本会の研修会は歯科医学、医療技術の進歩に伴う最新情報を取り入れ専門的内容を常に網羅しています。卒後生涯を通じて研鑽が積める内容が受講できます。

常にホームページで最新情報を掲載しています。ご確認ください。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなか、研修会はオンライン開催で実施しています。

1 2 愛知県保育士会

愛知県保育士会は、保育士の職能組織として全国の都道府県、指定都市に組織されており、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めています。本年度の愛知県保育士会の会員数は、14,676名。次代を担う子どもたちの健やかな育ちのために、地域における子育て文化を育む活動を広げるなど、地域の子育てネットワークにおける中心的役割を果たす保育士の育成のため事業を展開しています。本年度事業概要は以下の通りです。

1 重点事項

- 1 改定保育所保育指針等及び子ども・子育て支援新制度に対応する取組み
- 2 愛知県保育士会の組織強化及び地域における保育士会活動への支援
- 3 保育士会市町村委員等の資質向上・学習の場の提供
- 4 福祉サービスの質の向上のための自己評価等の取組み
- 5 会員向け情報提供の充実
- 6 東海北陸保育研究大会「愛知大会」開催

2 会議の開催

- (1) 委員総会 (2) 常務委員会 (3) 正副会長会議 (4) 保育関係役員合同会議

3 研修会の開催

- (1) 新規職員セミナー (2) 保育士会委員研究会 (3) 尾張・三河地区研修会
(4) 名古屋地区研修会 (5) 愛知県保育研究集会

4 会員向け情報提供等の充実

- (1) 愛知県保育士会概況の発行 (2) 機関紙すかんぼの発行

ワクチンを創る あすを守る

サノフィ株式会社

サノフィバスターワクチンビジネスユニット

〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

<http://www.sanofipasteur.jp/>

2020年9月作成 MAT-JP-2003208-1.0-09/2020

SANOFI PASTEUR 

がんや血栓の新しい治療薬を届けたい。
第一三共が積み重ねてきたサイエンスに
新しい切り口を加えて
生まれるイノベーション。
その先に、希望という名の
ゴールがあると信じて。



イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。



Daiichi-Sankyo
第一三共株式会社

セイエイ・エル・サンテグループ

今日もどこかで
誰かを支えています

私たち八神製作所は、
2021年、創業150周年を迎えました。
これまでの歴史を、これからの未来へつなぐ今
目の前の仕事のその先にある、健やかな人生を希って
予防・医療・介護の現場を支えること、
「地域」に寄り添いながら、頼られるサービスを届けることに
これからもひたむきに、取り組んでまいります。

株式会社 八神製作所

〒460-8318 名古屋市中区千代田二丁目16番30号
TEL. 052-251-6671(代)



YAGAMI
www.yagami.co.jp

愛知県小児保健協会規約

(名称及び所在地)

第 1 条 本会は愛知県小児保健協会と称する。

第 2 条 本会は事務局を愛知県大府市森岡町七丁目 4 2 6 番地あいち小児保健医療総合センターに置く。

(目的及び事業)

第 3 条 本会は小児保健に関する研究及び知識の普及啓発等を目的とする。

第 4 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 小児保健に関する学術集会等の開催
- (2) 小児保健に関する調査研究
- (3) その他、本会の目的達成に必要な事業

(構成員)

第 5 条 本会は愛知県に在住または在勤する本会の趣旨に賛同する者によって構成される。

第 6 条 賛助会員は本会の事業に賛同し、援助する者をいう。
(賛助会員 1 口 10,000 円)

(役員)

第 7 条 本会は次の役員を置く。

会長	1 名
理事	25 名程度
常任理事	若干名
監事	若干名

理事は小児保健に関連する団体等から推薦を受け、理事会で協議して決定する。
会長及び監事は理事の互選で選出する。

第 8 条 会長は会務を総括する。

理事は理事会を構成し、本会の会務を執行する。常任理事は会長を補佐し、庶務・会計を担当する。

第 9 条 監事は会計の監査をする。

第 10 条 役員の任期は 1 年とする。
ただし、再任は妨げない。

第 11 条 本会に幹事を置く。

幹事は会長の委嘱により、理事の業務を補佐する。

第 12 条 本会には顧問を置くことができる。

顧問は理事会の推薦により、会長が委嘱する。

第 13 条 本会には名誉会長を置くことができる。

名誉会長は理事会の推薦により、会長が委嘱する。

(会計)

第 14 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

(規約の改正)

第 15 条 本会の規約は理事会の承認を経て、変更することができる。

附記

平成 3 年 1 月 13 日規約制定

平成 15 年 2 月 22 日改定

平成 27 年 1 月 25 日改定

平成 28 年 2 月 14 日改定

令和 2 年 1 月 12 日改定

令和3年度愛知県小児保健協会役員名簿

(令和3年7月現在)

協会役職	所 属 ・ 職 名	氏 名
会 長	あいち小児保健医療総合センター センター長兼免疫・アレルギーセンター長	伊藤 浩明
理 事	公益社団法人愛知県医師会 理事	西脇 毅
理 事	一般社団法人愛知県歯科医師会 理事	富田 健嗣
理 事	愛知県学校保健会 会長	浅井 清和
理 事	愛知県小児科医会 会長	津村 治男
理 事	愛知県小児科医会 小児保健委員会委員長	松川 武平
理 事	名古屋市小児科医会 会長	江口 秀史
理 事	愛知医科大学医学部衛生学講座 教授	鈴木 孝太
理 事	愛知県尾張福祉相談センター センター長	前田 清
理 事	一般社団法人愛知県薬剤師会 会計理事	松浦 隆
理 事	愛知県保健師会 会長	杉浦小百合
理 事	愛知県市町村保健師協議会 書記	成瀬和歌子
理 事	公益社団法人愛知県看護協会 常務理事	大矢 早苗
理 事	愛知県養護教育研究会 会長	小林 友美
理 事	公益社団法人愛知県栄養士会 常務理事	山村 浩二
理 事	公益社団法人愛知県歯科衛生士会 副会長	久田せつ子
理 事	愛知県保育士会 会長	小林 豊子
理 事	名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課 課長	加藤 延介
理 事	名古屋市教育委員会指導部学校保健課 課長	片岡 進矢
理 事	名古屋市子ども青少年局保育部 保健事業主幹	永井 悦子
理 事	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 課長	古川 大祐
理 事	愛知県教育委員会保健体育課 課長	岩田 政久
監 事	日本赤十字豊田看護大学 小児看護学特任教授	大西 文子
常任理事	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 室長	杉浦 至郎
幹 事	名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課 母子保健係長	長沼 裕子
幹 事	愛知県中央児童障害者相談センター 企画・児童指導課 課長	井上香奈子
幹 事	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 主査	神谷ともみ
幹 事	愛知県教育委員会保健体育課 指導主事	安藤美穂子
幹 事	愛知県教育委員会知多教育事務所 指導主事	飛田野芳佳
幹 事	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 室長補佐	秋津佐智恵
幹 事	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 技師	岩田 歩子
顧 問	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻 発育・加齢医学 教授	高橋 義行
顧 問	名古屋市立大学大学院 医学研究科新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
顧 問	藤田医科大学小児科 教授	吉川 哲史
顧 問	愛知医科大学附属病院小児科 教授	奥村 彰久

「小児保健あいち」20号

発行 愛知県小児保健協会

〒474-8710

大府市森岡町七丁目426番地

あいち小児保健医療総合センター

保健センター保健室 内

電話 0562-43-0500(内線4041~4043)

FAX 0562-43-0504

E-mail hoken_center@mx.achmc.pref.aichi.jp